

PRESS KOUCHOU

東浦中学校 校長だより H24 No.18



トイレの話

私たちの生活に欠かせないものといえはたくさんあるわけですが、「私たちの家の中で一番大切な場所は」と聞かれたらどこだと答えますか？。どこの家にもあって他の場所では代用できない所があります。それは……トイレです。寝食は寝室やダイニングなどでなくてもできますが、用を足すのはトイレでしかできません。どこの家にも学校にもあり、あって当たり前であり、使えて当たり前であるトイレですが、私たちはそのありがたさを考えたことがあるでしょうか。

今ではトイレといえば水洗が主流になり、シャワー付き、乾燥機能付きのものまであります。しかしトイレが今のように清潔で使いやすいものになったのはまだまだここ数十年のことです。江戸時代から続く昭和の時代までは日本のトイレといえば糞尿を溜めておき、それを汲み取って処理をしていました。江戸時代には人糞は絶好の肥料になるということから農家の人達が野菜と交換したり買ったりしていたそうで、長屋にある共同トイレの人糞は大家さんの大きな収入源になっていたそうです。またヨーロッパでは下水道が発達する 18 世紀頃までは、各家庭にトイレという場所はなかったそうで、糞尿を溜めておくおまるのような容器で用を足し、その糞尿をなんと窓から外へ捨てていたとか。今ではおしゃれな街並みもかつてはあちこちウンコやオシッコだらけだったわけです。

18 年前に起こった阪神淡路大震災の折、避難所生活で一番困ったのもトイレだといえます。水が出ないものですから避難所になった学校のトイレは機能しません。だれかがウンコをする。流せないのその上にまたウンコをする。こうしてトイレはウンコが山盛りになり使えなくなる。すると運動場に行き側溝で用を足す。そこも使えなくなり今度は運動場に穴を掘りそこでするという具合です。ニオイもすごいし、不衛生きわまりない状態だったということです。

ところが世界に目を向けてみると今でも全世界の人口の 3 分の 1 にあたる 25 億人がトイレのない生活をしているそうです。そうした人々は屋外の道路脇や川などまた木の繁みや草むらなどで用を足さなければならず、蛇に襲われたりするなどいろいろな危険が伴うそうです。その上きちんと処理されない糞尿が川や池などに流れ込むこともあり、その水は生活用水にも使われますので、コレラなどの伝染病が蔓延する原因にもなっています。今日世界の先進国で平均寿命が延びたのもトイレのお陰だといわれているくらいです。

さて、このように私たちの生活には無くてはならないトイレなのですが、私たちはどのような使い方をしているでしょう。私の家のトイレに「ここは孤独なところ 自分が自分になるところ」という言葉が掛かっています。なるほどとつくづく思います。トイレにこもる。そこは誰にも見られません。そういうところでこそ人は自分の本性が出ます。「素になれる」と言った方がいいのかもしれませんが。しかし逆に、どんな使い方をしても誰も見ているわけではありません。だれからも咎められません。ましてやそこが自分の家でなかったら。学校や公共のトイレだったら。トイレの使い方には人間性がよく出ます。トイレは大切な修行の場ともいわれる所以です。

日本では少し前までトイレではなく便所という呼び名が主流でした。これは「大・小便をする場所」という意味ではありません。そもそも「便」という言葉は「交通の便がいい」などの使われ方をするとおり、「都合がよいさま、安らかで快適なさま」という意味があります。「便所」とよく似た言葉「便室」とは御殿の中の休息のための部屋のことです。すなわち「便所」とは便意から解放されすっきりする場所、安らげる場所という意味なのです。なるほど…と思いませんか。だとしたら英語でトイレのことを **restroom** といいます。まさにその通りという感じがします。

私たちの生活に欠かせない大切なトイレ。そのトイレが本当に「安らげる場所」であるよう快適に使えるよう汚さず美しく使い、感謝の気持ちをもって大切にしていきたいと思えます。

平成 25 年 1 月 24 日